ブルースリー物語　その２

帯広市医師会
帯広中央病院
吉田（よしだ）　貢（みつぐ）

さて検死の結果から、ブルースリーが長年悩んでいた慢性頭痛の原因も、再発を繰り返す、一過性の脳浮腫であったと推測される。ただリーに目覚め型の頭痛や食事に関係しない嘔吐などの脳圧亢進症状があったかどうかは不明である。CTやMRI検査がなかった当時の精密検査は、血管造影による連続撮影と断層撮影だが、異常はなかった。（1973年の映画エクソシストで、この検査を見ることができます。）

ブルースリーはストリートファイターでもあったので、彼が脳浮腫になりやすい体質となった理由は、頭部（脳）に蓄積したダメージが原因と思われるが、あまりこの説を唱える人はいない。なぜならリーは過去の多数のケンカや決闘で負け知らずで相手から自分の頭部に打撃をもらったことなどないからだ。

だが「ニュートン様の運動力学（作用反作用）の法則」を忘れていないだろうか。相手からの打撃を自分の頭部にもらわずとも、自分の拳で相手の頭部に打撃を与えると、相手の頭部から自分の拳に同じ衝撃が反り、その反作用が自分の脳にまで伝わって来る。もちろん自分に反って来た力の大半は自分の脳に達する前に体の中で分散吸収されてしまうので、頻回に相手の顔面を強打しなければ問題はない。

享年74歳の無敵のボクサー、モハメッド・アリも、試合では相手を殴りまくって、自分はほとんど殴られていないが、引退して３年の42歳でパーキンソン病と診断され、闘病生活を送っていた。

ただし、グローブをつけて相手の顔面を殴っても、頭部の骨は非常に硬いため、自分の脳を痛める前に自分の拳を痛めるリスクの方が大きく、ボクサーはケンカをしても絶対に素手で相手の顔は殴らない。

素手で相手の顔を殴るには空手のような「硬気功」の鍛錬が必要だ。空手家の鍛えた拳は瓦や板を割り、相手の頭部を殴っても自分の拳を痛めない。

一方のブルースリーもケンカで、いきなり相手の顔面を躊躇なく殴っていたので、硬気功をマスターしていたはずで、リーの「二本指片手腕立て伏せ」がそれを証明している。そしてブルースリーぐらい素手の拳で相手の顔を殴りまくった格闘家は、最近では存在しないのではないだろうか？

素手の空手の試合で相手の顔面を殴ったら反則なので、実際に相手の顔面を素手で本気で殴り大ケガさせたことのある空手家は、そう多くないはずだ。

一方のブルースリーは香港で若手俳優スターとして活躍していた10代の頃、その陰でストリートファイトに明け暮れており、無敵のケンカ番長で相手の顔を殴りまくっていた（と言われている）からだ。

作用反作用の話に戻り、叩く対象が胸部や腹部、ミットやサンドバッグぐらいの柔らかさなら大丈夫だが、頭のように硬いものはダメだ！極論を言うと、５階から飛び降りて地面の硬いコンクリートに向けてライダー・キックを放てば、地面から足を経由して反ってくる衝撃で脳挫傷となり即死だろう。

リーが「詠春拳」道場に入門したのは、手合わせで一度だけカンフーの使い手に遅れをとったからとも言われているが、ケンカを止めないため僅か３年で破門されており、師から「硬気功」の危険性に関して十分な指導を受けていなかった可能性がある。

岩や鉄骨を素手で叩き割る「硬気功」の大道芸を行う者が、自分の脳を痛めることは周知の事実で、練習の虫だったリーの硬気功の鍛錬のやり過ぎが、脳にダメージを蓄積したもう一つの原因と思われるからだ。ちなみに伝統的な中国武術は、甲冑を着た相手と武器で戦うのが前提なので、拳は鍛えない。

さて、皮膚や筋骨を鍛えることはできるが、頭部は金的と同じく急所であるため、頭部をどれだけ殴っても、脳が鍛えられて丈夫になることはない。

それどころか、特に頭部を殴り合うボクサーに多く見られるように、脳にダメージが蓄積され、症状の軽重は様々だが、後から「パンチドランカー」と俗称される症状に悩まされるようになる。

その当時は何でもなくても、徐々に頭痛や手足のしびれ、体のふるえやバランス感覚の喪失、さらに進むと呂律が回らない、パーキンソン病、認知症、などの様々な脳神経症状が出て来る。

顔を殴るのが専門のボクシングが、頭蓋内出血で一発死亡となる危険性があるにもかかわらず、現在でも禁止されず大人気の理由は、やはり拳で顔を殴ってノックダウンさせるのが、エンタメとして最もエキサイティングだからだろう。

1959年にリーは、カンフー他流派の相手を決闘で大怪我させ、とうとう警察沙汰になってしまう。ケンカ両成敗とはいえ香港警察が把握できたリーのケンカの数が多すぎて、今後一度でもケンカをしたら刑務所行きのお達しが下った。だがケンカが三度の飯より好きなリーは絶対にケンカを止めず、このまま香港にいれば俳優生命が絶たれてしまう。そこで両親は当時18歳の、血の気の多いリーの頭を冷やす目的も兼ね、実姉の住むアメリカに渡らせた。

リーはシアトルに住んで職業訓練学校でもあったシアトル・セントラル・カレッジに通い、1961年にワシントン大学に入学する。当時のカリフォルニアでは中国武術も盛んで、道場主らは空手道場に追いつけ追い越せと、各地の体育館などで白人を対象としたパフォーマンスなどを行っていた。（つづく）